
奇術愛好家オマケ

ペロコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

奇術愛好家オマケ

【Nコード】

N0914D

【作者名】

ペロコ

【あらすじ】

なんて工夫のないタイトル！スイマセン； お分かりの通り、オマケです。かなり短いですが 快斗一人称となっています。奇術愛好家その後 もう、ここでは何も語りません。後書きでたっぷり書いてるんで（汗） では、読んでいただけたら嬉しいです（*ハハ*）

肌寒い朝、いつものように学校で新聞を開き、思わずタメ息をついてしまった。

朝刊にデカデカと載っている文字を読むと、どうしても悔しくなる。

『インターネットのオフ会で殺人事件！ 犯人はあの奇術師の孫娘』

昨日、軽い気持ちから参加した『奇術愛好家』のオフ会は、予想もなかった出来事がとにかく続いた。

鈴木財閥のお嬢さんがオレのファンだと知った。
探偵くんの謎はますます深まった。

そして何より、人が死んだ。オレの目の前で。

『止めたかったよ、今回の悲しい殺人は……』

そう悔しそうに呟いた小さな名探偵には、フォローを入れておいた。
だがしかし、オレなら止められたはずだ。おそらくは。

探偵くんは本当に風邪で倒れてたし、しょうがないんだ。
でも、でもオレは、マジックをやってる時も目の前で見てた。

「それ、イカサマですよ？」
と言うことだってできたんだ。

それなのに、オレは何もしなかった。言わなかった。

「何してんの？ 快斗！」

「あ、青子か。見て分かんねえのか？ 新聞読んでんだよ」

「それにしても何か暗い感じがしたけど……。あ、この事件かあ」
「青子も知ってたのか。意外だな」

「何よ、失礼ね！ 青子だってちゃんとニュース見てるもん！！」

この事件に、キッドが関わっていたことは伏せられている。
きっと、あの小さな探偵くんも何も言わなかったんだろう。

「でも、快斗もショックだよ。春井風伝さんのマジックも好きだったもんね」

「ああ……」

オヤジと同じで、常に温かいマジックを披露していた春井風伝さんは、ごくたまに、ドキドキさせられるマジックを披露したりして、小さい頃感動したことを覚えている。

だからこそ、彼の孫娘がそんな犯罪に手を染める前に止めたかったのだ。

「……………」

「あれ？ 何で青子がそんなに暗い顔してんの？」

「だって……そういう風に人を殺しちゃう前に、誰かに言うことも出来なかったのになって思ったら、悲しく、て……」

優しい、優しい青子。

何も、青子が悲しくなる理由なんか無いのに、こっして泣きそうな表情になる。

P O M

「えっ!？」

「まったく、青子がそんなこと思わなくてもいいだろ？ そりゃ、田中さんが人を殺す前に誰かに言ったら変わってたかもしんねえけどさ」

バラを出して渡しつつ青子に言う。

「そうだけど……」

「だあああつ！ 泣くんじゃねえよ、朝っぱらから！ ……悪かったよ、こんな記事読んでさ」

「え、別に快斗は悪くないよ。青子が勝手に感傷的になっちゃったから……。バラ、ありがと」

ちよつと涙でうるんだ瞳で笑おうと努力している青子の表情は、さつきよりも多少ではあるが明るくなっていて、ホッと安心する。

「きつと、ちゃんと罪を償ってくれるよね」

オレが『弱い』顔が目の前でコロコロと表情を変える。

「ああ、きつと」

そう言つと、満足そうというか安心した顔でバラを見つめた。こつこつ所は幼いなと思う。

「あ、そうだ快斗！ 宿題見せて！ 昨日寝ちゃって出来てないの……」

「お子様だな、青子は」

「お、お子様じゃないもん！」

「いいぜ、貸してやるよノート。この優しくてカッコいい快斗さまのだぜ？ ありがたく思えよ？」

「ありがとう、快斗！ あ、だからって授業中寝ちゃダメだよ？」
「うっせー！」

「それと……」

「え？」

「快斗も気にしちゃダメだよ？ じゃ、ノートありがと！」

こういうところはすぐ気づく。
でも、青子に言われてさっきまで心に何か、のしかかるような物を感じていたのが、軽くなっているのに気づいた。

「ハハ、現金だなオレも」

誰かにフォローを入れてもらいたかったのだろうか。
まだまだ弱えなあ……。青子がいてくれてよかった。心からそう思える。

肌寒い朝なのに、温かい気持ちになれたのは、きっと青子のおかげ
だと思う。

サンキュ、青子。

口には出してやんねーけどな。

（後書き）

【書きちゃったよ、オマケ！】（ やっぱりタイトル？）

こんにちは、ペロコです。 実は日曜日が模試だったりしますが、こ
うやって小説かいてます。

危険だなと思いつつもやめない辺りがアホです。

タイトルを見ても読んでも分かるように、奇術愛好家その後。『
キッドside』版。

ちょーっとシリアス気味ですけど、まあコレはコレで。 ああいう事
件でしたしね。

実は、1年前の今日スタートしたんですよ。『キッドside』
が。 ということで書いたんです。

どの話にもオマケはあるのに、奇術愛好家だけ書いてなかったんで
すよね。 何で書いてないのかは自分でも分からない（というか覚
えてない）んですけど。

とりあえずは、『キッドside』をたくさんの方に読んでいただ
けた感謝とお礼、そして1周年記念（コレはあんまり関係ないか？）
を込めてありがとうの気持ちです。 本当にありがとうございます！！

その『キッドside』ですが、本当にたくさんの方に「続きを
！」と言うコメントをいただいて、かなり喜んでいます。 ね、快斗
？

「おうよ！ みんな優しいんだな。 温かいメッセージをこんな作者
にくれるなん……ゴフツ」

『こんな』と言ったので、排除。 お見苦しいところを……（汗）

実は、考えてるんですが、難しいんですよ。」

「なっ！ それでは私の活躍はどうなるのです!？」

復活早……。しかもキッドだし。

「どういうことですか!？」

ま、それはこっちの事情なのよ。頑張るつもりだけどね。

「そ、そんな……」

P O M

あ、スネた。

えっと、逃げた(というかスネた)ので、追いかけてきます！

また意味不明に快斗に乱入されてスイマセン。

この話のこと何にも書いてませんが、読んでそのまま受け取っても
ええたら……。いいんだと思います。

では、追っかけてきます！ 感想をいただいた方には、お返事は逃
げた罰としてキッドに書かせますので。

それから、ただ今平次・和葉執筆中です！

では！ これからもよろしく願いしますね。

トドトドトド…… (鈍足)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0914d/>

奇術愛好家オマケ

2010年10月9日19時42分発行